

【学生によるESD活動支援】

奈良市立大宮小学校 野外活動 支援報告書

英語教育専修 学部3年生 坂本和音

1. 実施日 平成30年5月17日(木)
2. 場所 奈良市青少年野外活動センター
3. 参加者 奈良市立大宮小学校 第5学年児童101名、引率教員3名他
谷垣徹、坂本和音、栢山菜々、畑下さつき、西條秀哉、小林真理納(ユネスコクラブ)
井奥康樹(奈良ユネスコ協会青年部)
4. 活動支援内容

平成30年5月17日(木)～18日(金)、奈良市少年野外活動支援センターにおいて、奈良市立大宮小学校第5学年の野外活動が行われ、本学学生6名及び奈良ユネスコ協会青年部の学生1名がその支援に当たった。主に1泊2日のうちの1日目に行われたキャンプファイヤーの活動支援を行った。支援の具体的な内容としては、キャンプファイヤー開始前の準備(薪組みやトーチ棒の製作)、児童らへの指導(点火を行う際の動き、トーチ棒の取り扱いについて)、学生主導のファイヤーゲーム2種類と歌指導が挙げられる。

今回の野外活動支援を以下の2点で振り返る。第1に活動を通じた児童との交流について、第2に学生側の学びについてである。

第1の活動を通じた児童との交流についてである。今回の支援ではキャンプファイヤーだけでなく、それ以外の時間で児童らと交流することができた。児童らに「野外活動はどのようなですか?」と、問いかけるとその日のオリエンテーションや飯盒炊飯等のプログラムについて、楽しかったことや学んだこと、キャンプファイヤーをとっても楽しみにしていること、などを次々に答えてくれた。私は単にキャンプファイヤーの補助だけで支援活動を終わるというのではなく、その活動以外でお互いにコミュニケーションを取って知りあうという交流ができるのも、野外活動支援の大きな魅力であると感じた。

第2に学生側の学びについてである。今回の支援の参加者には野外活動支援自体が初めてだという学生もいた。児童らと一緒にキャンプファイヤーの雰囲気、支援する側としての意識、薪の組み方やゲームの進行などの基本的なことまで、今回の活動を通して実に多くのことをも伝えることができた。この経験は今後の野外活動支援に大きく役立てられ、学生側の意欲の向上にもつながることと思う。また、今回の野外活動では児童らがグループに分かれて行うスタントをキャンプファイヤーのメインとしていた。学生らはその様々なスタントから小学生の児童らならではの自由で楽しい発想や動き、練習の成果を発揮しようと奮闘する姿勢を感じることができたことと思う。

今年度初の野外活動支援を無事に終わることができた。これからもこのような貴重な機会をいただけることに感謝し、今年度の野外活動支援も精いっぱい取り組んでいきたい。



学生らが薪組みをする様子